

## コラム 緑化植物 ど・こ・ま・で・き・わ・め・る

### コバノミツバツツジ (*Rhododendron reticulatum* D. Don)



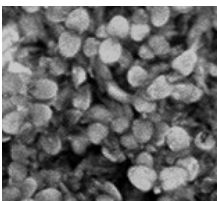
森本 淳子 (日本大学大学院生物資源科学研究科) [moemo@orion.ocn.ne.jp](mailto:moemo@orion.ocn.ne.jp)

花崗岩の白い山肌が紅紫色に染まり始めると、春の訪れである。関西の里山では、かつて「山へ柴刈に」行けばコバノミツバツツジの小枝を採集していたと思われる。それほど身近な雑木であった。しかし、ライフスタイルの変化に伴い、コバノミツバツツジ群落は衰退の一途を辿っている<sup>5)</sup>。花の季節に日あたりの良い林縁を歩くと気づく、それほど希薄な付き合いになってしまった。いっぽう、関東地方に分布する同じミツバツツジ節、ミツバツツジ (*R. dilatatum* Miq.) もやはり自生地での衰退が激しい。しかし、山裾の民家を訪ねると、庭先に根付いた大きな山取り株が残っている。山取り株を母樹としてミツバツツジの種苗栽培も行われる。2月~3月の植木卸売市場では必ず見かける。今は昔の「雑木」が、現代では、関西と関東で若干異なる扱いを受けている。

コバノミツバツツジは、育てるのがとても楽しい植物である。発芽率は良く、一斉に出揃った小さな実生はとても可愛い。特に肥料をやらなくても幼木はよく成長し、10年も経たないうちに花が咲く。「郷土種」を目玉にした緑化に、ぜひ利用してもらいたい植物だ。以下に、種子・実生・幼木・成木の各ステージにおける特徴を記す。

(1) 種子の採集と保存: 11月下旬~12月、茶色く熟した朔果が開く直前に摘み取り、天日で十分に乾燥させる。ピンセットを用いて割ほぐすと、一つの果実あたり200粒~300粒の種子が出てくる。殺菌消毒して再び乾燥させた後に、シリカゲルなどの乾燥剤とともに密封して冷蔵庫に保管する。冷蔵庫で保存すると、室温で保存した場合に比べて種子の発芽力が低下しにくく、採集から4ヶ月間は80%~90%、2年以上たって70%程度(どちらも25℃恒温条件)の発芽力を保つことができる<sup>2)</sup>。

(2) 種子の発芽: ヤマツツジ (*R. obtusum* (Lindley) Planchon var. *kaempferi* (Planchon) Willson) やミツバツツジでは遮光により発芽率が低下するとの報告があるが、コバノミツバツ



コバノミツバツツジの芽生え: 双葉が出揃ったところ、葉長は約2mm

ツジは光発芽性ではない<sup>2)</sup>。一定以上の積算温度に達すると発芽する。ガラス室で1月~6月にかけてミズゴケとピートモスに播種したところ、5月(平均気温約20℃)の発芽率が最も高くなった<sup>2)</sup>。ある程度暖かくなってから種を播くほうが、発芽までの所用日数が短くてすみ、カビや病害虫の被害を受けにくいようだ。野外に直播きする場合は、さらに、着床面の浸食されにくさや保水力の高さが求められる<sup>1)</sup>。

(3) 幼木ステージ: 日あたりが良いところでは毎年、主軸1本と仮軸分枝3~4本のペースで上へ上へと成長する。分枝が規則的で樹形が美しいのが幼木の特徴である。

(4) 成木ステージ: 高いもので樹高は4m余りにも達する。光環境によって樹形や花つきが大きく異なる。ヒノキ林のような暗い光環境下でも葉群を笠形に広げて生き延びるが花芽を分化することはない<sup>3)</sup>。光環境が明るければ、葉群は複層化し多くの花を咲かせる。前年の光合成同化量から、翌年の花の数を推定することも可能だ<sup>4)</sup>。

#### 引用文献

- 1) 森本淳子・柴田昌三・長谷川秀三(2003)野生ツツジ2種の種子発芽と実生の生育立地要求性 - 直播きによる野生ツツジ群落復元実験 -, 日本緑化工学会誌, 29(1): 135-140.
- 2) 森本淳子・柴田昌三・長谷川秀三(2003)野生ツツジ2種の地域性種苗の生産技術: 日本緑化工学会誌, 29(2): 360-366.
- 3) 森本淳子・丸山 宏・柴田昌三(1997)異なる光環境に生育するコバノミツバツツジの開花のメカニズム: ランドスケープ研究, 60(5): 485-488.
- 4) 森本淳子・吉田博宣(1999)コバノミツバツツジのシュートレベルにおける開花数決定のメカニズムと推移行列を利用した開花数の予測, 日本林学会誌, 81(3): 203-209.
- 5) MORIMOTO, J., YOSHIDA, H. (2004) Dynamic changes of native *Rhododendron* colonies in urban fringe of Kyoto city in Japan: detecting the long-term dynamism for conservation of the secondary nature, *Landscape and Urban Planning*, 70(3-4), 195-204.



早春のコバノミツバツツジ



コバノミツバツツジの芽生え